

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ネットワーク組織論 Communication network		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(上級情報処理士必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
稲見 崇 司	本館 2階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
普段何気なく利用しているインターネット等に関わるネットワークの技術的な側面や、日々進化している情報システムのもたらす社会の変容等を見つめながら、その賢い利活用方法についての現実的な姿を学習する。また、ネットワークの開発に携わってきた人々の苦勞・努力等も国際的な視野から学ぶ。				
授業の目標				
①情報通信ネットワークの基本的仕組みを理解できるようにする。 ②ネットワーク社会での生活において、賢い情報通信利用の基本的方法を修得できるようにする。 ③ネットワーク社会での業務において、賢い情報通信利用の基本的方法を修得できるようにする。 ④情報通信ネットワークの進化による生活と仕事の変化への速やかな適応力を身につけるようにする。 ⑤情報通信ネットワークを主体性を持って利用したり活用したりするための考え方を身につけるようにする。				
授業の方法				
ネットワークの見えない部分を、ビデオ映像などを利用してできるだけわかりやすく説明する。				
学習の成果 (学習成果)				
①ネットワークの仕組みに対する基本知識を踏まえて、主体性を持って、業務や生活における情報通信ネットワークをより賢く活用することができる。 ②情報通信ネットワークの進化がもたらす生活や仕事の変化を自ら感知して速やかな適応をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	授業のガイダンス			
第2回目	ネットワークとは？① (生命組織(神経の仕組み)との対比、光ファイバー)			
第3回目	ネットワークとは？② (ネットワークトポロジー、通信エンジニア、通信路・海底ケーブル)			
第4回目	ネットワークの情報処理 (郵便配達との対比、パケット、情報量)			
第5回目	ネットワークの規約① (プロトコル、ルーター、動的ルーティング)			
第6回目	ネットワークの規約② (OSI、TCP/IP、SMTP)			

第7回目	インターネットを支える技術① (モデム、ADSL、FTTH、ハンドオーバー、IPv4、IPv6)		
第8回目	インターネットを支える技術② (待ち行列理論、利便性と経済性)		
第9回目	ネットワークの利用① (無線LAN、ホットスポット、CDM、ストリーミング、クローラ)		
第10回目	ネットワークの利用② (オンデマンド、パーソナルサーチ、ページランク)		
第11回目	ネットワークのセキュリティ管理① (ウィルス、なりすまし、ボット、クラック、フィッシング詐欺)		
第12回目	ネットワークのセキュリティ管理② (フィルタリング、デジタル署名、暗号化、公開鍵方式、SSL)		
第13回目	ネットワークセキュリティの最新動向について (ソーシャルエンジニアリング、ゼロデイ、ハニーボット)		
第14回目	ネットワークの総合的基礎知識の復習		
第15回目	ネットワーク最新動向について (ネットインフラの進化、ネットコンテンツの進化、利用形態の進化)		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度			
レポート	20%		授業開始時にレポート用紙を配布し、記名の上回収するが、その後の授業の内の9回の授業時間の終了前に、授業の内容について指定した部分を記述し提出する。9個全ての欄に記入が充当していることで満点とする。
調査報告書			
小テスト	10%		15回の授業の内の数回で、授業の内容理解の小テストを行う。全ての回答が正しいことで満点とする。
試験			
発表内容 (態度含む)			
その他	70%		14回目の授業で、シラバスに沿った授業内容を概ね網羅したネットワークの総合的基礎知識の確認を行う。各自が作成したノートとレポート用紙のみ参照可とする。全ての回答で正しい知識が確認された時、満点とする。
教科書と参考図書			
授業で適宜資料プリント等を配布する。			
履修上の留意点・ルール			
必ず当授業用の独立したノート(他の科目と一緒にのノートとしないこと)を各自用意し、毎時間しっかりと授業内容を記録すること。			